

2,4-P Aを想う

筆者が、農林省農事試験場鴻巣試験地在勤の折に、稲生育には害がなく雑草を枯らす2,4-Dという新しい除草剤が導入され、水稻研究室で処理時期、施用法、効果等について試験が行なわれることを知った。それは昭和22年のことで、それまで、田の草取にさんざん苦労した者にとっては、まったく夢のようであった。それ以来除草剤の開発は目覚ましいものがあり、当時夢想的に思っていた所謂一発処理剤の普及をみるようになった。この中にあって筆者の除草剤との出会いは、昭和26年に広島農試へ在勤するようになってからである。この時には2,4-P Aは既に全国的な試験も一段落して、一般農家へ普及されていた。

当時は多収をあげるために、多肥栽培をしては病虫害や倒伏の障害をうけていた。そこで、倒伏障害の軽減をはかるために各種の試験を行った。その際の出合いが2,4-P Aであった。試験の結果、2,4-P Aを散布した時に伸長し始めている節間に強く作用してその節間は伸長する。然し、その後伸長する節間の伸長は抑制された。又、2,4-P Aは稈にリグニンの集積を促し、稈がかたくなって挫折し難くなり倒伏の軽減に役立つことが分った。即ち、節間伸長開始期に散布すれば、短稈・強稈となり倒伏軽減に役立ち、然もこの時期は除草剤として使用する適期であり、一石二鳥である。

この技術は昭和31年頃から実用化され、今日の良質米生産のための耕種基準に採用されている。息の長い除草剤であり、わが国の稲作改良にとって偉大な功績というべきである。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事
近畿・中国・四国支部長 原田哲夫〕

目 次 (第21巻第3号)

巻 頭 言

2,4-P Aを想う…………… 5

＜財団法人 日本植物調節剤研究

協会理事 近畿・中国・四国

支部長 原田哲夫＞

水田に発生する藻類とその生態…………… 6

＜国立科学博物館植物研究部

渡辺真之＞

1. 藻類とはどのような生きもの

か…………… 6

2. 藻類はどこから来るのか…………… 6

3. 微小藻の採集と観察の方法…………… 7

4. 藻類の分類と同定…………… 7

5. 水田で見られる藻…………… 9

藍 藻 植 物…………… 9

緑 藻 植 物……………10

車 軸 藻 植 物……………13

ヒカリモ植物……………13

渦 鞭 藻 植 物……………14

おわりに…………… 14

昭和61年度常緑果樹関係除草剤・生

育調節剤試験成績概要……………17

＜財団法人 日本植物調節剤研究

協会 技術部＞

新除草・調節剤紹介

ジメタメトリン・プレチラクロール粒剤…………29

＜植調協会だより＞……………30